

伊賀市 事務事業評価シート

ソフト事業

事業名	コード	名称	会計	コード	名称
960	適応指導教室事業	会計	01	一般会計	
		款	10	教育費	
31	個性を伸ばし、夢を追い求められる教育を進める	項	01	教育総務費	
		目	03	義務教育振興費	
		細目	102	児童生徒指導経費	
		細々目	02	適応指導教室事業	
担当部課名	教育部 学校教育課				
作成者氏名	加納 圭子	連絡先	22-9676		

事業の計画・内容

事業の目的	対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)
	不登校児童生徒及びその担任と保護者	不登校児童生徒が学校復帰します。また、子どもたちの社会的自立が実現します。
本年度事業内容	1. 児童生徒及びその保護者との教育相談活動 2. 不登校児童生徒に対する適応指導活動 3. 不登校の実態把握 4. 教育相談にかかわる教職員の研修活動	
開始年度	平成 5 年度	終了年度 平成 年度
		根拠法令・要綱等

投入資源

	H17	H18(予算)	H19(予算)
①投入人員			
正規職員 (人)	0.125	0.25	0.25
人件費合計(A)	900	1,800	1,800
②支出内訳(千円)			
事業費(B)	7,733	7,721	7,721
委託料			
報酬	3,407	3,408	3,408
報償費	1,514	1,550	1,550
その他	2,812	2,763	2,763
合計(A+B)	8,633	9,521	9,521
③財源内訳(千円)			
特定財源			
国庫支出金			
地方債			
受益者負担			
その他特財			
一般財源	8,633	9,521	9,521
上記①～③に関する特記事項			

事業実績

活動指標	単位	実績値			目標値		
		H17	H18	H19	H17	H18	H19
通級児童生徒の学校復帰率	%	100	100	100	100	100	100
教育相談回数	回	680	650	630			
研修会開催回数	回	23	25	25			
不登校実態調査回数	回	4	4	4			

評価指標

事業の目的の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	H17	H18(目標)	H19(目標)
不登校を訴えた児童生徒が学校復帰できた割合	教育相談や適応指導によって、不登校の症状を解消して、学校へ再登校することや進学が実現する等、児童生徒が自立できるようにどれだけ支援できたかが指標となります。	%	100 目標 ( 100 )	100	100
			目標 ( )		

事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等

適応指導教室は、現在、「伊賀市教育研究センターふれあい教室」という名称で活動しています。不登校児童生徒の増加に伴い平成5年度に設置され、子どもたちの居場所としての環境整備をしてきました。毎年、20～30人の児童生徒が通級していますので、教育相談と適応指導の場を提供し、再登校に向けての支援をしています。教室環境についても、相談室、プレイルーム、学習室を整備しています。さらに、指導補助員として常勤職員2名、カウンセラーとして非常勤2名を配置しています。保護者の方々や教職員にとっても教育相談の場として活用されています。改善点としては、不登校という状況は同様であっても、個々の背景は様々です。今後、カウンセラーによる専門的な支援と教育相談員、指導補助員による適応指導をより充実したものにする必要があります。

評価	必要性	4	子どもたちは不登校を訴えながら、その中で、友だちのこと、両親のこと、勉強のこと等様々な思いを心の中で巡らせています。ふれあい教室では、こうした子どもたちの揺れる心をしっかり受け止め、子どもたち自身が自分の力で立ち上がり、色々なことに挑戦していこうとする意欲をもてるよう支援しています。学校はもとより保護者や地域、そして、医療等の関係機関と十分連携を取りながら、体制としては、今後も継続して子どもたちの自立を見守っていきたくと考えています。	総合評価 <b>A</b>
	有効性	4		
	達成度	4		
	効率性	4		